



7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific
7th ICAAP Secretariat, c/o Convention Linkage, Inc.
PIAS TOWER 11F, 3-19-3 Toyosaki, Kita-ku, Osaka 531-0072 JAPAN
Phone: +81-6-6377-2188 Fax: +81-6-6377-2075

プレスリリース

2005年7月4日

アジア・太平洋地域でエイズ治療薬へのアクセスは増えている しかし今後のケアの需要が地域の医療システムを脅かす

アジア・太平洋地域で生きている HIV 感染者/エイズ患者に対する抗レトロウイルス薬 (ARV) の普及は目覚ましい。しかし、この地域には 820 万人もの HIV 陽性者 (HIV 感染者・エイズ患者) が暮らしており、治療のニーズは今後さらに大きくなるが、各国の治療システムはそのニーズに対応する準備ができていない。

3by5 計画の目標は中・低所得国の 300 万人の HIV 陽性者に今年 (2005 年) の末までに抗レトロウイルス薬を行き渡らせ、世界中の治療とケアのサービス拡大の努力に大きな弾みをつけることである。

第 7 回アジア・太平洋地域エイズ国際会議で報告された経験は、貧困で最も困難な状況においてさえ、大規模な HIV 治療アクセスが達成でき、有効で手が届くものになりつつあることをさらに照明している。一方で、現在のレベルを越えて治療を広げることと、これを支えるシステムを作り上げることは、大きな課題として残されている。

アジアは、世界で 2 番目にエイズ治療のニーズが高い地域であるが、抗レトロウイルス薬を服用している人の数は、過去一年で 5 万 5000 人から 15 万 5000 人へと 3 倍に増えている。こうした大きな進歩にもかかわらず、この地域では症状の進行した HIV 陽性者で抗レトロウイルス薬を服用している人の割合は、全体としてはわずかであり、世界の平均普及率 15% とほぼ同程度である。このことはつまり、いまず抗レトロウイルス薬の恩恵を受けられるはずのアジアの HIV 陽性者が約 100 万人も治療にアクセスできていないということである。いまはまだ治療も他のケアも必要としない HIV 陽性者が、この地域にはさらに 700 万人生きている。これらの人たちに将来、否応なくエイズ関連のサービスの必要な時期が来るはずである。

世界保健機構(WHO)の事務局長補でかつ、HIV/エイズ・結核・マラリア対策プログラム責任者の Jack Chow 博士は「目標との間にはまだ大きなギャップがあります。300 万人の計画は今年の末までには実現しそうにありません。しかし、追いつくことはまだ可能だと考えています。創造的な方法を工夫して効果をあげることにはできると思います。つまり、色々なニーズを持っているコミュニティーに対

し、教育者、市民指導者そしてジャーナリストからなるチームを紹介すれば、プログラムが導入された時の理解度は非常に高いはずです」と述べている。

インドは現在そして将来のエイズケアのニーズがアジアで最大の国であるが、現在抗レトロウイルス薬を使用している人はおよそ6万5000人である。タイはアジアで最も抗HIV薬の配布に成功しているが、抗レトロウイルス薬がすでに必要になった患者でも40%は飲んでいない。

インドのチェンナイの実験医学・エイズ研究部門で働いているNMサミュエル博士は「患者に抗レトロウイルス薬を配布することを約束してきましたが、私たちがその約束を果たしていないことは間違いありません。もし必要な人たちに抗レトロウイルス薬を欠かさないように配ることができなければ、次善の策としてHIVに関連した日和見感染症の予防や治療に必要な薬を必死で探し、欠かさないように提供するか、栄養状態の改善に努めなければならないでしょう。そうでなければ、次の3年間もおびただしい数の人が死んでいくのを手をこまねいて見ていなければなりません」と語っている。

この地域での、各種のHIV/AIDSに関連するケアの提供について、現在生じているギャップは「3by5目標」だけでなく、2001年の国連エイズ特別総会(UNGASS)ですべての政府の賛同によって採択されたコミットメント宣言の主要な目標が達成できないことを示している。アジア・太平洋地域の指導者たちも採択に参加したこの宣言には、2005年末までに「HIV/AIDSに関する包括的なケアの戦略を実施することについて、有意な進歩を形成・発展させなければならない。……抗レトロウイルス薬を含む入手可能な医薬品、適切な診断およびそれに関わる技術、および医療的ケアや心理的ケア、苦痛緩和に関わるケアなどへのアクセスを供給することを必要とする」と記されている。さらに言えば、わずか1年前の2004年7月、アジア・太平洋の38カ国・地域の政府は、閣僚会合においてこの宣言を再確認したのである。それは、「すべての人にアクセスを：政治的説明責任」と題する声明に結実している。

第7回ICAAPの開会式で、国連エイズ合同計画のピーター・ピオット事務局長は、これらの課題が実現するための行動が不十分なことに注意を喚起した。「数字は、全体として非常に多くの国でわずかの行動しか起こされていなく、もっともリスクの高い人々に対する保護と支援がかけていることを示しています」と述べた。

2006年の半ばまでに、国連エイズ特別総会のコミットメント宣言の目標を達成するための各国の行動実績に対する評価が出される予定である。各国のHIV/エイズの活動計画のレベルはスポットライトの下にさらされる。

「『3by5』目標が達成出来ないと見込まれることは、単にひとつの目標の失敗ではありません。これはその目標を後押しし、救うべき命を助けることに失敗した富裕国、貧困国の指導者に対する告発なのです」とICAAPに参加しているアフリカの代表であり、アクションエイズの国際HIVコーディネイターであるレオナルド・オケロ氏はいう。「来週開催されるサミットはこれを正すチャンスです。」

政府は、2010年までに必要とするすべての人々が誰でも治療を受けられる普遍的アクセスを確保する必要がありますし、それを実現すべきです」と付け加えた。

詳細なプログラム（英語）が、ウェブサイトでご覧いただけます

<http://www.icaap7.jp/>のcongress schedule内をクリックし、プログラム（PDF）
をご参照下さい。

本件に関するお問い合わせ先：

第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議 広報委員会

会期中（7/1～）：メディアセンター（神戸ポートピアホテル 本館2階 つつじの間）

078-302-2564